
ラドゥのメモ帳

ラドゥ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラドウのメモ帳

【Nコード】

N2292BA

【作者名】

ラドウ

【あらすじ】

これは書く暇がないけど思いついた小説のネタをお試し版として書きつづったメモ帳みたいなものです。

ここに書いてある話はいずれ書くかもしれませんが、書かないかもしれないのであしからず…。

遊戯王5D's伝 似非関西人の決闘人生 (1) (前書き)

とりあえず、5d'sです。お試しとして書いてみました。

遊戯王5D's伝 似非関西人の決闘人生 (1)

俺の名前は難波ヨシツネ《なんばよしつね》。ぴっちっぴっちの3
6歳や (すでに中年)

今俺はちよつとしたメダパニ状態(混乱状態)に陥つとる。なぜか
って?それはな…。

いつのまにか赤ん坊になつてたんや…

……OK、とりあえずその受話器を下ろそか。別に頭がおかしくな
ったわけやないから

プロローグ『転生ってなんやねん…』お試し版

「ばぶばぶぶー（落ち着け俺。クールになるんやクールに…）」

とりあえず、あまりに突飛な事態に俺は冷静になろうと努める

（ま、まずはこうなった原因を探らな。なにか、なにかあるはずや…）

俺はこうなった原因を探ろうとめったに使わない頭をフル回転（笑）させてみる

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

覚えてねえ――――！！？！

え？なにこれ。マジでなんの記憶もないんやけど！？

と、とりあえず覚えてることを整理しよか

- ・ 名前は難波ヨシツネ

うん、これは覚えとる。

・年齢は36歳でカードゲーム（遊戯王OCG）と二次創作の小説を読むが好きな会社員。ちなみにドーター

ほっ
とけ。

- ・他の記憶がない

「ばぶばぶ……!!」 (それや)

なんで？なんで自分がサクランボなこと覚えてんのにその他の記憶がないんやーーーー！！？

（それはわしが消したからのう。）

・・・ん？

「ばぶばぶばー。ばぶばぶば？（今誰かの声が。気のせいかな？）」

俺は幻聴だと思ってきく（幻聴じゃないんじゃないかな？）な、な
んや？一体誰や！？

俺は突然聞こえてきた爺言葉の人物の声に、警戒する。

（ふおおおお、まあこのままではお主も話しづらからう。自己紹介の前に姿を見せるとするかの。）

「ば？（は？）」

ピッカーーーーーン！！

突然目の前が光に包まれた…。

「ん…んん？」

俺が目を開けると、そこは白い色に塗りつぶされたような空間だった

「どこやここ…」

およ？さっきと違って喋れるぞ？

自分の体を確認してみる

「元に戻つとる…」

先程まで赤ん坊だった体は元に戻つとった

「ふおおおお、良く来たの坊主…」

「ん？この声は？」

俺は立ちあがった辺りを見回すが誰も見当たらない

「おかしいなあ…」

さっきの声は先程聞こえた老人の声だろう

しかしその老人はどこにもいない

いったいどこいったんや

俺は試しに呼びかけてみた

「おい、誰かいなんか——！」

「ここじゃぞ——！」

おっ！声が聞こえた

急いで辺りを見回す。しかし…

「やっぱ、見当たらんなあ？」

その声の主はやっぱり見つからへん

ほんまにどこにおるんやろ？

俺はまた呼びかけようとして息を思いっきり吸い込み、

「ここにおるっていいておるじゃろっが――――！！」

「ぐばあああああああああ――！！」

思いっきり鳩尾にタックルをくらった

な、なんやねんいったい…

俺があまりの衝撃に腹を抱えて悶絶していると、頭の上から声が聞こえる

「ふん！わしを無視するから悪いのじゃ！当然の報いと心得よ。」

…なんか偉そうな声が聞こえてきた

俺が苦痛に顔を歪めながらそちらを見ると、そこには…

褐色の幼女がいた…

………なんでやねん。

俺はそこで意識を落とした。

意識を失った俺が再び目を覚ますと、そこには俺の顔を心配そうな顔で見ている先程の少女の姿が

ああ・・・

「やっぱ少女や。」

「だれが幼女じゃ――――！！」

俺の言葉を幼女が全力で否定する。というか耳元で叫ぶなや。マジ耳キンキンするわ！！

で、

「お譲ちゃん誰や？」

「わしはお譲ちゃんじゃないわ！神様じゃ！」

「そうか、神様か。すごいなー神様（笑）」

「神様（笑）っていうなー……！！」

それから、どうみても幼女だの、幼女じゃないだから神様だつていつてんだろだの、だったら証拠みせてみるだの、だったらお前の恥ずかしい過去をばらすだの、記憶がないから確認できないだの、ド―テー（笑）だのそんなやりとりがあり、俺はこの幼女が神様だということ信じぜらるおえなくなつた…。

…ドーターのなにが悪いんや……

「で、その神様（笑）がなんのようや？」

「意地でも（笑）はとらないのじゃな」

うん、そこらへんはあきらめて

それに神様（笑）は疲れたような顔をし、「もういいわ」と話を進めることにしたようや。すまん？

「ふむ、ではまず自己紹介じゃな。わしの名前はテ・オドーラという。一応神様をしておるよ。…あ、念のためにいっておくがテオドラという名前ではないからの！」

「？テオドラって誰よ」

「いや、わしも知らんがなんかいわなければならぬ気がするの…。なんでじゃろ？」

いや、俺は知らんよ

「呼びにくいから『ドーラ』でええか？」

「もうなんでもいいぞい…」

なんでそんなに疲れとん？（君のせいじゃない？by作者）

閑話休題

「で、その神様がなんのようなんや。」

「いや、お主は自分が赤ん坊になってた理由が知りたかったんじゃ

なかったのかの？」

「…おお！そうやった、忘れっとった！！」

「…ふう、まったく…」

そない、呆れた顔しなくてもええやん。…照れるやろ（笑）

「それでじゃ、なんで赤ん坊になったのかというと、実はお主、

転生したんじゃよ…。」

転生か…。

「ふうん…。」

「ふうん…って、…それだけかの？」

いや、だって

「赤ん坊になるなんて事態になんのはそれくらいやる？」

二次創作を読むのが趣味らしかったからな。その辺の知識はのこつとるわ。…なんでこんな知識がのこつとるんや。

「あ、それわしがやった。」

「なんでやねん。」

なんでそないなことを？

「前世の記憶を全て持ったままだと、未練を残して人生を楽しめない転生者もいたからの？余計な情報を忘れさすようにしたのじゃ。」

ドーテーは必要な情報だったと申すか。

「それはおもしろかったからいれてみたww」

「てめえッ……！！」

初めてこの幼女に殺意が沸いた。

でもまあその程度のこととて腹を立ててもしゃーない。事情は理解した。

あ、そうだ。まだ聞かなきゃならんことがあつたなあ。

「なあ、まだ聞かなきゃならんことがあつたんやけど？」

「ん？なんじゃ。」

首を傾げる幼女神。ツク！なんて破壊力や！？

気持ちを落ち着かせるために俺は深呼吸を一つすると、ドーラに尋ねた。

「結局俺はどんな世界に転生したんや？」

するとドーラは左手の手のひらを右手でほんと打つ。どうやら忘れてたようやな。…どーでもえーけど古ないかそのリアクション。

「そうじゃな、忘れとったわ。お主が転生する世界は、

遊戯王5D'sの世界じゃ。」

これは転生者である俺と、シグナーたちの戦いを綴った物語である。

プロローグ『転生ってなんやねん…』 お試し版 終わり

遊戯王5D's伝 似非関西人の決闘人生 (1) (後書き)

神様の名前があれなのは、褐色幼女がテオドラしか思い浮かばなかったためあの名前にしました。他意はないです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2292ba/>

ラドゥのメモ帳

2012年1月5日20時47分発行